



げんきな子 がんばる子 やさしい子

園だより

6月号

北区立さくらだこども園
園長 西澤 尚子

繋がり

6月になり、子どもたちは園で生活することに安心してきて、少しずつ周りにある物、人を、関心をもって見るようになってきたようです。学級の中の担任やよく側にいる友達以外にも、面白いことをしている友達や保育者がいるのが目に入るようになってきています。何かな、面白そうだな、ちょっと試してみようかな…と思うことが増えていくようにと、保育者は遊びや友達との関わりが広がるように環境をつくり、関わっています。新しい遊びをしてみると、今までとは違う友達と一緒にいることが増えたり、今まで感じたことのなかった感触や感覚、気持ちを感じたりします。幼児期に感じた感覚はその人の中にずっと残っていきますから、保育者は子どもたちの思い、感覚に丁寧に向き合っ、心地よい繋がり、関わりをどうつくっていくかを体験させたいと考えています。

この頃、少し気になっていることがあります。食事のときに箸やスプーン・フォークを持つ、反対の手を使わずに食事をしている幼児の姿です。日本人の食事の習慣としては、食具を持つ反対の手は、可能な限り器を持ったり押さえたりする、ものだと思います。そしてこれは左右の手の協応運動ともなっています。左右の手が、食事をするという目的に向けて違う動きをする、ということです。体のどこかを使うためには脳が働いています。食事のときに使っていない手の分は、脳が働いていないということになります。食事の度に、脳は体の各部分（左右の手、口の中の様々な筋肉）の協応運動ができるように働いています。使われると、脳はよりスムーズに指令が出せるようになりますが、使われないことで体がもっと動かしにくくなっていくのはもったいないことだと思います。

先日、榮先生のサッカー体験の準備運動で、5歳児が自分でボールを投げて上げて取るという動きをしていました。そのときに榮先生は「膝を使ってボールを上を上げるとそのまま手に戻ってくるよ」と教えてくれましたが、膝を曲げると手に意識がいかず、膝を使わずに手だけで投げ上げてボールが真っ直ぐ上に上がらない幼児が多く見られました。これも体の協応運動です。一つのことに集中してその分、他への意識が向きにくくなっているのだと思います。

体の中のことも、体の外の周りとの関係も、似ているところがあるなあと思います。集中するよさもあります、繋がりが広がるよさもあります。幼児のうち、体の中も外もまず、繋がりを広げていく時期かと思います。繋がりは一言伝えて広がるものではありません。安心して広げられるように、お子さん一人一人に合った繋がりの広げ方を、一緒に考えていきたいと思っています。

ー 今月の指導のめあて ー

- < 3歳児 >
 - ・保育者や友達と過ごす中で、自分のしたい遊びを十分に楽しむ。
 - ・園で必要な着替えや所持品の始末の仕方が分かり、自分でする。
 - ・梅雨時の雨の様子や、育てている植物や野菜に興味をもち、見たり触れたりして楽しむ。
- < 4歳児 >
 - ・自分の好きな遊びをする中で、自分なりに動きや言葉で思いを表そうとする。
 - ・保育者や友達に親しみや関心をもって関わり、同じ場で遊ぶことを楽しむ。
 - ・水や泥、泡など様々な素材の感触を楽しむ中で、心地よさや面白さを感じる。
- < 5歳児 >
 - ・自分の思いやイメージをもち、実現に向けて考えたことを試したり、工夫したりすることを楽しむ。
 - ・相手の話をよく聞いたり、友達に自分の思いやイメージを伝えたりしながら、一緒に遊ぶことを楽しむ。
 - ・身近な生き物や野菜の生長などに興味や関心をもち、親しみをもって世話をしたり発見を楽しんだりする。

『衣替えの季節です』

6月1日は、衣替えです。実際は、5月から暑くなっていますので、すでに夏の対応をしている方が多いですが、6月からは、園帽とズボンのみの着用になります。ズボンの下に長いスパッツなどをはいているお子さんがいますが、これから、水遊びの機会も増え、着替えをしますので、靴下の方が扱いやすいです。

